

協議会第二期目に入って再び外環必要性について考える

平成 15 年 7 月 4 日 協議員 宿澤藤子

6 月 27 日、杉並区が青梅街道インターチェンジ杉並側地元の猛烈な反対運動に依って山田区長が反対の意思表示をなさいました。

私ども協議員も、一年間何の議決もなく第二期に入りました。

今考えるに、第二期目を迎えて何をやってきたのかな、私は住民の代表として、又、行政側も莫大な費用を遣いながら、十分な運動、皆様に満足してもらえる手足となり得たのか、日々自問自答しつつ、これからも白紙撤回を目指して頑張りたく思います。

一方、川崎の地下鉄工事は 5 年間延期、場合に依っては中止になる可能性もあると報道され、行政側のおもいきった決断が待たれます。

7 月 4 日、朝日新聞コラム天声人語で「ソウルでは都心の高架道路を撤去して暗渠を地表に出して憩いの川に再生する工事が始まっている」と書かれています。

道路々と東京中、いや日本中を道路だらけにしてよいものだろうか？たとえ外環道下を大深度にしても、住民に全然影響がないとは言いきれない、むしろ換気塔から出る排気ガスは、周囲の住民に与える環境問題として、新たな問題提起になるのではないかと思います。

この先、少子、高齢化に向かいます。そうした中、車両が増え、常時大深度のトンネルの中を走らせる人がいるのでしょうか。全然とは云わないまでも費用をかけるだけのことがあるのでしょうか？

行政の意地で進めようとしている。「人間」と「道路」とどちらが大事？車は回り道をしてもよいではないか。協議会二期に入りちょっと感想を！！

「狭い日本そんなに急いでどこへ行く」の言葉が思い出されます。